

2019年4月吉日

ユニシス研究会 九州・沖縄支部
会員各位

ユニシス研究会 九州・沖縄支部事務局

2019年度 研究活動メンバー募集

拝啓 日頃よりユニシス研究会活動にご協力、ご支援をいただき厚くお礼申し上げます。
ユニシス研究会では、「グループ研究」活動形式により進める活動を実施しております。
日常業務の中で抱えている課題やこれからの IT を駆使した新たな働き方、AI 活用などをテーマに会員同士や日本ユニシスグループ社員との情報・意見交換の場、また、相互研鑽の場として推進しています。

敬具

1. 研究テーマ：

ご参加者でテーマを決めていただきます。

ご参考としまして、関東支部での募集活動テーマを同封させていただきます。

2. 参加資格：ユニシス研究会会員企業（職種に関わらずご参加頂けます）

3. 参加費用：

①本年度研究活動費として1企業あたり、20,000 円を申し受けます。

* 参加人数に係わらず、1企業あたり 20,000 円となります。

* 参加メンバー確定後、「連絡責任者」へ参加費用をご請求させていただきます。請求書送付先が連絡責任者と異なる場合は申し込みの際に連絡欄にご記入願います。

②活動のための移動交通費、宿泊などの経費は参加者の負担とさせていただきます。

4. 研究活動の運営について：

①グループ活動のチームは原則定員5名以上10名以下として編成します。

②主体はご参加いただく皆様です。

基本的にはグループに参加された方の自主活動です。

日本ユニシスグループもアドバイザーとして皆様の活動を支援いたします。

5. 活動期間と会合回数：

本年5月より翌年2月まで、日中の通常業務時間内でグループ単位にて調整しますが、15回～20回程度の会合を見込みます。（2018年度は21回実施）

<1年間の主な活動スケジュール>

4月下旬頃～ 研究活動 参加者募集開始

会員企業様へ 2019年度の研究活動メンバー募集のご案内を開始します。

5月中旬 発足式(第1回会合) 日本ユニシス株式会社 九州支社

ご参加の皆様、事務局、ユニシスグループ社員(アドバイザー)の顔合わせ。
役割分担や今後の会合の持ち方など、グループ内で決めて頂きます。
終了後、懇親会を予定しています。

9月上旬(金)～(土)サマースクール(対象:リーダー、サブリーダー)静岡県三島市

サマースクールまでに進めている内容や活動状況を、リーダーとサブリーダー
が発表します。他グループとの情報共有や交流が目的です。
詳細は別途ご案内します。

1月中旬 九州・沖縄支部発表会 日本ユニシス株式会社 九州支社

報告書提出前に、また全国発表会に向けて、九州・沖縄支部内で発表会を
行います。九州・沖縄支部幹事をはじめ、以前に研究活動へ参加された会員
やテーマにご興味をお持ちの会員にご参加頂き、質問や感想を受けて、報告
書や発表資料をブラッシュアップします。

1月下旬 活動報告書提出期限

研究活動の成果を報告書形式で提出します。研究活動運営委員が、構成力
や表現力、汎用性や独創性などを考慮して査読・審査を行います。
3月に行われる全国発表会の評価点と合わせて各賞が決まります。

3月6日(金)仮 全国発表会 東京:有明ワシントンホテル

10ヶ月間の成果発表の日で、全国の約30グループが一斉に集合します。
活動報告書と発表内容、質疑応答の内容が審査委員によって評価され、各
賞が決定します。
特に優れた成果を残したグループには『エッカー特賞』候補に推薦されます。

6. 発足式:2019年5月30日(木)を予定しています。

7. 申込方法:添付の参加申込書を FAX、または E-mail にてお申込下さい。

締め切りは 2019年5月20日(月)とさせていただきます。

8. お問い合わせ先:

■九州・沖縄支部 事務局 中村 光一	〒812-0011 福岡市博多区博多駅前 1-1-1 博多新三井ビル 日本ユニシス(株)九州支社内	電話:092-517-6701 FAX:092-471-8044 E-Mail: juua-kyushu-info@ml.unisys.co.jp
--------------------------	---	---

9. その他:

ご報告(発表資料含む)いただいた研究活動成果(研究活動活動報告書、プレゼン資料等)の著作権は著者に帰属いたしますが、著者はユニシス研究会が主幹する「機関誌など刊行物掲載」、「WEB サイトへの掲載」など、ユニシス研究会としての研究活動成果配布に係わる一切の権利(個人名・会社名・所属先の公開を含む)をユニシス研究会に無償で許諾するものとします。

* 会員様のご担当者の変更手続きが間に合わずに以前に登録された方へお送りしてしまう場合がございますが予めご容赦いただきますようお願いいたします。

10. 昨年度の参加者の感想

☆社外の方との交流が少ない業務で、人見知りの性格もあり、当初は活動に消極的だったが、会合を重ねる度に意見が言えるようになり、参加して本当に良かったと思っている。

☆業務との両立が難しかったが、メンバーと調整しながらやり遂げる経験は今後の業務に役立てられると思っている。

以上

2019年度研究活動 活動テーマ募集一覧

	キーワード	募集対象	テーマタイトル(案)	活動内容(案)
1	品質管理 (プロジェクト管理)	ユーザー企業の 情報システム部門	結構どこにでもある「動かないコンピュータ」問題 我々はなぜ同じことを繰り返してしまっているのか？再発防止はできないのか？ 苦戦プロジェクトから学ぶ品質管理について研究する。	昨今、複雑で高度なシステム化案件が増える中、日経コンピュータ誌の記事「動かないコンピュータ」のできことは、まさに他人事ではないと感じている。どこの会社でも動かないまでも、相当苦戦したITプロジェクトがあると思われる。そこで、それぞれの会社から過去の苦戦したITプロジェクトの分析結果を寄せ集め、今後同じような苦労や失敗を繰り返さないために「教訓集(解説含む)」を作る。例えば、「ストコン開発をなめると大苦戦」、「プロジェクトの期間が長すぎると迷走する」、など。 真の原因を簡素なメッセージ化するために、問題分析手法、失敗学(上位概念化)などの手法を学ぶ機会にもなると良い。
2	DevOps	ユーザー企業の 情報システム部門、運用部門	DevOpsによるソフトウェア開発の 効果とリスク	ソフトウェア開発手法の1つであるDevOps。開発担当者と運用担当者の連携が必要となるが、課題解決に向け実装者としてのSRE (SiteReliabilityEngineering)の存在と役割を研究する。
3	音声認識	IT企画部門の管理者・ 担当者	音声認識技術を活用した ビジネスの創出	AIアシスタント機能を搭載するスマートスピーカーが急速に普及し注目されている。 「音声認識技術」の最新動向や活用事例について調査し、業務効率化への活用や新たなビジネスの方向性について研究する。
4	サブスクリプション	ユーザー企業の 情報システム部門	サブスクリプション型ビジネスを 考える	ソフトウェアや音楽、動画などデジタルサービスでは当たり前となっている「サブスクリプション型ビジネス」であるが、既存のビジネスにおいてもデジタルトランスフォーメーションの波を受けて大きく変わろうとしている。この”必要に応じて必要な量だけのサービスを提供する”ビジネスモデルに代わるためにはどのような仕組みが必要になるか、どのように変えなくてはならないかを研究する。
5	未来洞察	ユーザー企業の企画部門	未来洞察の試行と その効果について	新たな事業戦略や新規事業創出の手法として、予測の積み上げだけではなく非連続的な未来からの気づきを得て将来を見通す「未来洞察」が様々な企業で使われている。本活動では、未来洞察手法の学習と試行(ワークショップ)を行い、WSでは仮想的な事業分野を定め、未来洞察手法を用いて機会領域や未来年表を作成し、中長期的な活動戦略の策定までを行う。この一連の作業を体験することにより、未来を見据える力を養うとともに「未来洞察」とはどういったものであるか理解する。
6	ブロックチェーン	ユーザー企業 IT企画部門の管理者・ 担当者 ユーザー企業 情報システム部門の 管理者・担当者	ブロックチェーンって いったい何？ どんなことに注意しな ければならない？ 新たなビジネスモデル の探求	近年のFinTechの潮流の中で、大きな話題となった「ブロックチェーン」。そのユースケースは金融業界にとどまらず、あらゆる業界でブロックチェーンの価値が見出され、実証実験が行われ、まさに実サービスが始まろうとしている。一部では、ブロックチェーンが何かを理解するフェーズは終わり、ブロックチェーンの価値をビジネスにつなげるフェーズに移ってきている状況において、その流れに追随するための研究活動を実施する意味は大きい。 本研究テーマでは、ブロックチェーンの基本的な立ち戻って理解するところから始め、どんなことに注意して活用すべきか、今後の展望、新たなビジネスモデル例から活用方法を探究する。 例えば、北海道ブランド(農産物、水産物)を保証できるようなトレーサビリティ業務への活用などを期待したい。
7	APIエコノミー(経済圏)	情報システム部門、 事業部門、企画部門	API連携が生み出す 新しい経済圏とは	API(Application Programming Interface)を提供する人、APIを利用してサービスを提供する人、提供されたサービスを楽しむ人の3者間で出来る仕組みを「APIエコノミー」と言う。 今後のビジネス展開において、社内外リソースの活用やビジネスサイクルの高速化に対応する手段としてAPIの提供や活用は不可欠になってきている。「APIエコノミー」を創出するために、どのようにAPIを提供するか、APIをどのように活用するかを研究する。
8	資産可視化	ユーザー企業 IT企画部門の管理者・ 担当者 ユーザー企業のITインフラ 部門 の管理者・担当者	システム運用における 既存資産の可視化	企業の業務システムは長期に渡って利用されるが、ソースコードの肥大化、ソースコードとドキュメントの乖離、情報の属人化など、さまざまな原因から情報が劣化し保守が困難化することは免れない。 対策としては、既存の資産を見える化して現状の把握を容易にすることが考えられる。 本活動では、どのような情報を見える化することで、困難となっている保守作業を改善できるかの検討を行う。
9	人工知能	情報システム部門 企画部門、事業部門 業務部門	データ活用と人工知能を活用した 企業内におけるデジタルトランス フォーメーション	様々なものがデジタル化され、つながる時代のなか、 データと人工知能を活用した、業務の生産性向上や省人化を始めとする、社会課題を解決するサービス創出について、調査・検証を通じて、次業務への適用や活用に向けた提言や実証を行う。

	キーワード	募集対象	テーマタイトル(案)	活動内容(案)
10	データの利活用	情報システム部門 事業部門	企業内・外に存在するデータを組み合わせて、新ビジネスについて考える	内閣府が提唱するSociety5.0実現に向けて、PDS(Personal Data Store)、情報銀行、データ取引市場という新たなデータ流通の仕組み・データ利活用が活性化してきており、既存の企業内データ、オープンデータや新たに収集できるデータを組み合わせて活用することで、新ビジネスの創出や社会課題の解決などを検討する。
11	深層学習	ユーザー企業 情報システム部門	深層学習適用におけるワークフロー	画像認識や音声認識等の活用事例で深層学習への注目が拡がる中、要素技術やツールに関する情報は増えてきているが、深層学習を適用する際のプロセスについては情報が少なく、担当者のスキルやAIベンチャー等の専門家に依存するところが多い。そこで深層学習の業務適用に向け、必要なプロセスや手順等のワークフローについて取りまとめる。
12	RPA	ユーザー企業の 情報システム部門	RPAの導入による業務の効率化	最近、RPAの導入による業務の自動化が目立ってきている。これにより業務部門のスタッフが業務オペレーションから解放され業務の効率化、改善、イノベーションが進んでいる。働き方改革の一環としての導入事例もセミナー等で発表されており、RPA導入事例の研究と新たな分野への導入可能性について研究する。
13	クラウド	企画部門	クラウドを利用した新たなビジネスモデルの探求	クラウドは企業のIT インフラには欠かすことができない選択肢となった。一方でパブリッククラウド、プライベートクラウド、マルチクラウドなど「クラウド」の名が付いた選択肢は無数にあり、性質が異なるそれらの中から自社にとって最適なクラウドを選定しなければならない。オンプレミスかクラウドかという観点では企業の情報セキュリティ面での対策が実現できるかがクラウドサービスに求められる。クラウドを利用する上での有効な利用方法について様々な角度から検証する。
14	働き方改革	ユーザー企業の 情報システム部門	働き方改革へのITの果たす役割	ワークスタイル変革の流れの中で、2020東京オリンピック開会式を「テレワークデー」と定め、業務実態に合わせて、在宅勤務/モバイルワーク/サテライトオフィス勤務等のテレワーク勤務を推奨するなど、「働き方改革」は早期実現が必要な重要課題である。現在はスマートフォンなどのモバイルデバイスや最近ではウェアラブル端末やAIスピーカーなど身近になりつつあるデバイスの変化にも対応しそれらを利用した働き方の見直しも想定される。又、総務省も企業が働き方改革を進める中で、ビジネス用途のチャットツールを導入する企業は増加していくと予想しており、今後も注視していく必要があると展望している。そんな中、活用シーンがどの様に変化し、そこでITがどの様な役割を果たすことができるのかについて探求する。
15	セキュリティ	ユーザー企業の 情報システム部門	働き方改革における企業のセキュリティ対策	企業に働き方改革が求められるようになり、様々な機器、ワークスタイルで時間、場所に囚われずに仕事ができるような環境が整ってきている。その一方で、企業の機密情報や個人情報などが漏えいする危険性は高くなる。このようなワークスタイルの変革の中で企業が実施すべきセキュリティ対策について研究する。

※具体的な、テーマタイトルならびに活動内容につきましては、グループ形成されたメンバーの皆様でご検討いただく事となります。